

編集後記

新しい一年の多幸を期して、本号では「めでたい場の食」という特集を組んだ。食や味覚は保守的だとよくいわれる。まして特別の日の、めでたい場の食であれば、古来変わらず続いてきたように映る。だが、アメリカの感謝祭における七面鳥の丸焼きがそうであったように、近年になって創造された伝統も少なくないようだ。ホーリー祭にふるまわれる料理が、地域によって異なるというインドの話も興味深い。国民文化になる前の食とは、そのようなものだったのだろう。他ならぬ日本の雑煮も、国民文化になってなお、その味や具材が地域によってさまざまではないか。他方、複数の執筆者がめでたい場の食を準備する大変さにくれていることは時代を感じさせる。正月のおせち料理が作るものから買うものへと変わるはずだ。

食の多様性の享受は、グローバル化した現代社会の賜物である。それはまた食材の「旬」が、栽培や養殖方法の改良、貯蔵・冷凍技術の発達、食糧の輸入により消失してきたからでもある。今ここでしか食べられないものが減り、いつでもどこでも食べられるものであふれる現在、食糧の豊かさが逆にその価値のデフレを招いているといえそうだ。

今年こそ手を振って海外調査に出かけられるようになることを切に願う。(南真木人)

- 表紙 右上：命名式の日の食事の支度（撮影：伊東未来、マリ、2007年）
右下：トル（満1歳の誕生日）の宴（撮影：守屋亜記子、韓国、2006年）
左上：感謝祭の日の食事。七面鳥の丸焼きを切り分けて食べる（撮影：鈴木七美、アメリカ、2010年）
左下：ホーリー祭では初日に木々を燃やす（撮影：茶谷智之、インド、2015年）

次号の予告

特集

「逆転の雪」

みんなぱくをもっと楽しみたい方のために 国立民族学博物館友の会のご案内

友の会は、みんなぱくの活動を支援し、博物館を楽しく積極的に活用するためにつくられました。

毎月『月刊みんなぱく』をお届けするほか、さまざまなサービスをご用意しております。

維持会員・正会員

『月刊みんなぱく』の送付／友の会機関誌『季刊民族学』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加／研究者同行の国内外研修旅行への参加 など

ミュージアム会員

『月刊みんなぱく』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加 など

繰り返し入館できる**みんなぱくフリーパス**や、学校・学部単位で利用できる**キャンパスメンバーズ**など各種会員種別もご紹介します。目的にあわせてご利用ください。

詳細は、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話 06-6877-8893 / 平日9:00～17:00)



月刊みんなぱく 2021年1月号

第45巻第1号通巻第520号 2021年1月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 園田直子
編集委員 南真木人（編集長） 上羽陽子 齋藤晃

菅瀬晶子 三島禎子 吉岡乾

デザイン 宮谷一 長岡綾子

制作・協力 一般財団法人 千里文化財団

印刷 株式会社 遊文舎

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんなぱくホームページ

みんなぱくフェイスブック

みんなぱくツイッター

みんなぱくインスタグラム

みんなぱくYouTube

<https://www.minpaku.ac.jp/>

<https://www.facebook.com/MINPAKU.official>

<https://twitter.com/MINPAKUofficial>

<https://www.instagram.com/MINPAKUofficial/>

<https://www.youtube.com/user/MINPAKUofficial>

